

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としている。第3期中期目標期間においては、①古都奈良に生まれ育まれた日本文化の洞察を通じ、ローカルかつグローバルに活躍できる女性リーダーを育成すること、②基礎物理学・分子科学・基礎生物学・高エネルギー物理学を中心に理工系諸分野の研究を進め、女性リーダー育成モデルを構築すること、③新たなライフスタイル創造の教育研究拠点を形成し、担い手としての女性リーダーを育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、奈良教育大学との法人統合、関西文化学術研究都市との連携や生活工学分野における諸活動を踏まえ、女性のみを工学部設置構想を具体化するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 理系女性教育開発共同機構と各附属学校が協力して、女子の理工系科目への興味・関心を高める研究を進めるため「理数研究会」を毎月定期的で開催し、そこでの研究成果を、理数シンポジウム（公開研究会・SSH成果発表会）（外部からの参加者183名）で発表している。シンポジウムでは、SSH指定校15年間の成果として、理数融合授業の分析結果、課題研究の分析結果と課題研究ロードマップ、サイエンス研究会のインタビュー結果、卒業生アンケート結果、国際連携カリキュラム、企業連携による「共創力」育成についてSSH成果発表会で発信し、研究成果を他校教員へ情報提供するとともに、附属中等教育学校ウェブサイトにもその成果を公開するなど、全国に発信している。（ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取組）
- 学生の大和・紀伊半島地域への関心を高めるため、大和・紀伊半島学研究所、吉野郡東吉野村、紀伊半島研究会の共催で「紀伊半島にみる自然と共生 ―ニホンオオカミを育む森―」と題した連携シンポジウムを開催し、吉野郡大淀町で保有するニホンオオカミの頭骨の展示や大学が所蔵する貴重な書物であるシーボルトの「Fauna Japonica」のニホンオオカミについて記されたページを展示するなどの結果、研究者だけではなく地元住民も多く参加している（参加者数154名）とともに、学生の同地域への関心を高める機会となっている。（ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 男女共同参画推進のためのアクションプランの実施

女性教員の採用促進を図るため、男女共同参画推進のためのアクションプランを遂行し、女性研究者の応募を促進している。また、副学長として2名の女性教員を配置するなどした結果、女性教員管理職比率は53.8%、管理職に占める女性比率は42.3%となり女性管理職の割合が向上している。さらに、大学全体の女性教員比率は39.0%となり、高い女性比率を保っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 全学生を対象とした情報セキュリティチェック

「情報セキュリティ等教育計画」を年度ごとに策定し、学生の情報セキュリティの意識向上を図るため、全学生を対象に情報セキュリティチェックを実施している（回答率74.0%）。また、「新任職員研修」「新入大学院生向けガイダンスⅠ」「情報処理入門Ⅰ（新入生向けガイダンス）」「臨時新入生向けガイダンス」において、情報倫理教育及び情報セキュリティ教育を実施するなど、大学構成員の情報セキュリティ意識向上の取組を行っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ ライフイベントによる大学院退学者への支援

女性研究者・女性リーダー育成のため、博士号未取得者のうち、大学院博士後期課程に1年以上在学し、ライフイベント等（結婚、出産、子育て、親族の介護・死亡、就職・転職、病気等）により退学した者を対象として、「再チャレンジ型女性研究者支援制度」を導入している。この制度による入学者については、入学料を徴収しないほか、入学前の既修得単位について10単位を上限として認定することとしている。

○ トランスジェンダー学生受入れに向けた検討

トランスジェンダー学生受入れに向けて、受入れ対象者及び受入れ時期、受入れに当たっての手続き、出願に当たっての相談窓口等の具体の方策を検討し、「奈良女子大学におけるトランスジェンダー学生受入れに関する対応ガイドライン」を策定している。